

日時 平成 25 年 9 月 22 日 (日) 14:45 ~ 18:00
会場 第 17 会場 リーガロイヤル NCB 2F 松

主催：薬学生シンポジウム実行委員会
共催：一般社団法人日本薬学生連盟 (APS-Japan)
西日本薬学生ネットワーク
協賛：公益社団法人日本薬剤師会
一般社団法人大阪府薬剤師会

「命の終わりに ～真のQOLを考える～」

少子高齢化が進み、社会構造や個人のライフスタイルの変化に伴い、医療に対する需要が高度化・多様化する中で、医療人には医療の質の向上と安全性の確保とともに、患者個人の価値観を尊重し、家庭環境や社会的背景に配慮した医療を提供することが求められている。

その中で、薬剤師の活躍の場は医療現場において多岐にわたり、ホスピスや在宅で行われる終末期医療でもその専門性を発揮し、貢献することが期待されている。

これから医療の担い手となる薬学生が終末期におけるQOLの維持・向上を目的とした患者主体の医療とどう向き合っていくのか、その根源となる精神についてグループディスカッションを通して考える。

学生企画タイムスケジュール

14:45	開会式(15分)	17:20	発表(30分)
15:00	講演(60分)	17:50	閉会式(10分)
16:10	SGD(70分)		



高宮 有介

(たかみや ゆうすけ)

昭和大学医学部
医学教育推進室 講師

<略歴>

- 1985年 昭和大学医学部卒業、外科学教室入局
- 1989年 英国ホスピスで研修
- 1992年 昭和大学病院内で緩和ケアチーム活動開始
- 2001年 昭和大学横浜市北部病院 緩和ケア病棟に専従
- 2007年 現職

大学病院の緩和ケアを考える会の代表世話人や、日本ホスピス緩和ケア協会・日本緩和医療学会の理事などを務めながら、緩和ケアの本質である「全人的ケア」、「死から生といのちを考える」教育を実践し、昭和大学および全国に発信している。著書に、「がんの痛みを癒す」(小学館)などがあり、今年3月に刊行された医学生向けテキスト「臨床緩和ケア」(共著、青海社:2013年)第3版の改訂に貢献した。